

2. 令和4年度 トピックス

◆ 庄内図書館がリニューアルオープン



庄内コラボセンター

©K's Photo Works 野口兼史



©K's Photo Works 野口兼史



©K's Photo Works 野口兼史



「せせくらせ」のみなさんと長内市長

庄内図書館は、令和5年2月20日に、庄内幸町4丁目の庄内コラボセンター「ショコラ」2階へ移転した。同日をもって閉館した庄内幸町図書館の資料も含め約7万冊の資料を所蔵。貸出・返却や予約資料の受け取りまでセルフでの手続きが可能になった。セルフ機の導入にあたり、予約資料の受け取りをオープン1週間前に開始し、利用者には使い方などの説明をおこなった。館内には、豊中市立図書館初の「静寂読書室」のほか、多文化共生コーナーやシニアライフ応援コーナー、学校図書館支援ライブラリー、靴を脱いで本が読める絵本コーナーなどが配置されている。

図書館のリサイクル資料を有効活用した「しょうないREK」の販売活動も、移転と同時に新しい体制でスタートした。(6ページ「しょうないREK」参照)

リニューアルオープンにあたり、学校図書館を通じて地域の子どもたちの好きな本を募集し、学校との連携展示をおこなった。そのほか、高校生によるウェルカムボードを掲示した。

オープニングイベントとして、大阪樟蔭女子大学教授の田原広史さんによる文字活字文化振興事業「田辺文学と大阪弁」講演会を実施したほか、大阪大学公認サークル・創作人形劇団せせくらせによる「人形劇で大冒険！」を開催し、大学生と市長のふれあいトークの収録もおこなわれた。また、来館記念としてオリジナルデザインのブックカバーを先着500名に配布した。



ウェルカムボード



しょうないこのすきな本展示



◆ 電子書籍貸出サービス（豊中市デジタル図書館）を開始

令和4年7月に「豊中市デジタル図書館」を開設し、電子書籍貸出サービスを開始した。市内在住・在勤・在学で豊中市立図書館の利用者カードを持っている人は誰でも利用できる。インターネットに接続したパソコン・スマートフォン・タブレットなどで24時間いつでもどこでも電子書籍を借りることができ、図書館への来館が困難な人や図書館の開館時間に利用できない人も、読書を楽しむことができる。

また、文字の拡大や音声読み上げ機能をそなえたコンテンツや外国語資料も一部導入し、読書バリアフリーの推進にも取り組んだ。今後も電子書籍の特長を活かしたコンテンツを順次追加し、多様な読書ニーズにこたえていくとともに、利用を促進するための講座を開催するなど電子書籍の利用拡大を進める。



豊中市デジタル図書館

◆ 豊中市立図書館みらいプランを策定



豊中市立図書館
みらいプラン

令和3年2月に策定した（仮称）中央図書館基本構想（以下、「基本構想」という。）の基本方針などの関連内容を具現化し、新たな図書館サービス網の構築をめざす「豊中市立図書館みらいプラン」を令和5年3月に策定した。

本プランは、（仮称）中央図書館の候補地を3か所選定するとともに、将来にわたり持続可能な図書館サービスの新たな展開（10項目）を公表した。令和5年度以降、基本構想および本プランに基づき、（仮称）中央図書館の計画地を選定し、整備を進め、新たな図書館サービス網の構築に取り組む。

◆ 外部評価～アンケートの実施と図書館評価部会開催～

令和4年10月1日から7日にかけて来館者を対象にしたアンケート調査を実施した。来館目的の達成状況や各種サービスの認知度・満足度を把握するとともに、（仮称）中央図書館基本構想の認知度や図書館に抱くイメージについて回答を得た。

来館者アンケート結果や「平成29-令和3年度 豊中市立図書館評価システム 自己点検報告書」などについて図書館協議会図書館評価部会での外部評価をおこなった。評価報告は図書館Webサイトなどで公開し、今後の図書館運営に活用する。